

授業科目名	演劇教育入門	担当教員	石井 路子 鎌田 麻衣子
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年 第3クォーター		
講義内容	演劇教育には、演劇そのものの教育（芸術の教養として、専門家養成として）と、演劇を活用した教育がある。本授業では、主に後者について、演劇が教育とどのように結びついているのか、実践例を中心に体験的に理解する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の種々の教育現場で、演劇がどのように取り入れられているのかを、体験的に理解する。 ・演劇的なものの見方、考え方が、教育とどのように有効なのかを、言語や身体を用いて、実践的に説明できるようになる。 ・学校だけでなく、社会のさまざまな場所で演劇を活用できる応用力を身につける。 		
授業計画	第1回 アイスブレイク研究／演劇教育と学習観 第2回 アイスブレイク探究／演劇教育と学習観 第3回 オンラインシアターゲーム 第4回 アイスブレイク探究／演劇教育と学習観 第5回 アイスブレイク研究／ファシリテーターのあり方 第6回 演劇教育の学び 第7回 演劇教育の理論と歴史①アメリカ、イギリス 第8回 演劇教育の理論と歴史②日本、その他 第9回 インプロ教育の理論と実践 第10回 応用演劇の理論と実践 第11回 大学における演劇教育の実際 第12回 ふりかえりとまとめ/演劇教育、応用演劇のこれから		
事前・事後学習	講義で毎回配布されるテキストを事前に読んでくる 講義の指示に従い、小レポートを作成する		
テキスト	各回の授業において資料を配付する		
参考文献	『高校生が生きやすくなるための演劇教育』（いしい, 2017, 立東舎） 『ワークショップ -新しい学びと創造の場-』（中野民夫, 2001, 岩波書店） 『インプロ教育の探究』（高尾隆、園部友里恵編, 2024, 新曜社）		
成績評価の基準	平常点（ディスカッションやプレゼンテーションへの参加）60% レポート40%		
履修上の注意 履修要件	特になし（備考欄を参照のこと）		
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。		

備考欄	理論科目・演劇教育入門→実践科目・演劇ワークショップ実習D→理論科目・演劇教育論と系統的に科目を配置し、理論と実践の往還を目指しているので、履修計画の参考にしてほしい。
-----	--